

平成20年度第1回「これからの図書館のあり方」検討小委員会 議事録

1 会議名

平成20年度第1回「これからの図書館のあり方」検討小委員会

2 議題

(1) アンケート調査について

(2) その他

3 開催日時

平成20年6月17日(火)

15時00分～16時00分

4 開催場所

北九州市立中央図書館内

視聴覚センター第2会議室

5 出席者氏名

(1) 検討小委員会委員

北九州市立大学基盤教育センター教授	棚次 奎介	委員長
北九州市学校図書館協議会会長	吉田 幸雄	副委員長
北九州市婦人団体協議会理事	浜崎いつ子	
北九州市社会教育委員	服部多恵子	
北九州市保育所連盟常任委員	中村 尋子	

(2) 事務局

中央図書館館長	山口 保夫
---------	-------

中央図書館副館長	菊本 誓
中央図書館庶務課長	井上 好二
中央図書館奉仕課長	常藤 秀輝
中央図書館庶務係長	河野 吉彦
中央図書館資料係長	永井 雄作
中央図書館奉仕係長	豊田 善正
中央図書館庶務係	山本 清貴
教育委員会生涯学習部長	林田 勉
教育委員会生涯学習課長	加藤 賢次
教育委員会生涯学習課管理係長	堤 晴幸
教育委員会生涯学習課管理係	徳間 博郎

6 傍聴者

なし

7 会議次第

- (1) 開会
- (2) 中央図書館長挨拶
- (3) 図書館職員自己紹介
- (4) 議 事 (報告、質疑応答)
 - アンケート調査について
 - その他
- (5) 閉会

8 会議経過 (発言内容要旨)

(1) アンケート調査について

(委員)

アンケートの対象者は、市内 18 ブロックから無作為に抽出した 3,000 人とのことだが、各ブロック同じ人数を抽出するのか。

(事務局)

ブロックごとの 20 歳以上の人口に比例して抽出する仕組みとしている。例えば、門司港ブロックであれば約 90 人、大里ブロックの人口は門司港の約 2 倍なので約 180 人としている。

(委員)

アンケートは、どの程度の返送を見込んでいるか。

(事務局)

約 3 割を見込んでおり、3,000 人に対して約 1,000 人分の見込み。

(委員長)

問 6 の「利用交通機関は何ですか」について、選択肢が幾つかある中で印を 1 つだけ付けるようになっている。一般的に、交通手段は複数の交通機関を利用することを考えると、主なものに 印をつけるという意味か。

(事務局)

そのように考えている。表現としては「“ 主な ” 利用交通機関は何ですか」というふうに書き加えることとしてはどうか。例えば、徒歩もあるが、ほとんどバスを利用するというケースも多分にあると思われる。

（委員長）

それでよい。

（委員長）

問 16 について、「図書館の数や場所をどのように考えていますか」という質問の仕方はいかななものか。この設問は、市民が図書館の現状をどのように考えているか、非常に重要な部分である。

この設問の選択肢が、「満足」「十分ではない」「分からない」という程度でいいのだろうか。具体的にどこに建ててほしいか、という聞き方は少し問題があるが、もう少し踏み込んだ聞き方をしてもいいという気もする。

あるいは、何か具体的な意見があれば、問 19 の自由意見欄に書いてもらう、ということもあると思う。

（事務局）

問 16 はどちらかというところ、図書館の数や場所、配置について、皆さん、現状でご満足ですかという設問である。ご自分が利用してご満足ですか、配置図を見てどう思いますか、という一般的な設問にしている。

具体的な意見は、できれば問 19 の自由意見欄にいただきたいという思いである。

（委員長）

私は、図書館の数そのものに対して、市民はそれほど関心がないと思う。

むしろ、利用しやすいかどうか、できるだけ近くにある方がよいということに関心があるのではないか。それが、どうやってアンケートで拾えるかということだと思う。この設問内容でいいのか。あまり具体的な設問は芳しく

ないとしても。

他市でも、「利用しやすい場所にありますか」という設問があった。だから、「利用しやすい場所にありますか」という聞き方でもいいと思う。アンケートで意見を十分把握するという意味では、こちらの方が設問としてはいいと思うが、どうか。

（事務局）

アンケートの裏表紙に配置図を付けており、図書館の数や配置が分かるようにしている。問 16 は、委員ご指摘のように、利用しやすい場所にあるかどうかということである。回答者にとって図書館が利用しやすい場所になれば、「十分ではない」ということになると思う。

（委員）

今の問い方では、この配置図を見て、「ああ、北九州市って、こんなにたくさん図書館があったんだ」という認識になりそうな気がする。

自分が住んでいる地域でどうなのか、ということを知りたいのであれば、自分にとって利用しやすいかどうかということを知ることがよりよいと思う。

（事務局）

事務局の考えとしては、市全体で見て図書館が 17 カ所あることについて市民がどう思っているか、また、図書館が市民にとって利用しやすい場所にあるのか、という 2 つの観点から聞きたい。

しかしながら、ご意見のように、設問の読み込みに個人差が生じる可能性はある。

表現としては、2 問設定するか、あるいは逆に、利用しやすいかどうかを絞って問うのか。確かに、市全体で図書館の配置をどう思うかという設問が、回

答し難いというのも理解できる。

もう1つは、図書館利用者限定されるが、問14の「図書館の印象をお聞かせください」の項目のひとつに「利用しやすさ」を入れて尋ねるのはどうか。

(委員長)

「利用しやすさ」とは、アクセスの問題でよいか。

(事務局)

アクセスの問題。

(委員長)

問14は、図書館の機能である中身について尋ねているが、場所のことに關して設問はないのか。

(事務局)

問14は、現段階では、場所やアクセスの項目はない。

(委員長)

問16の「どのように考えていますか」という問いかけは、こう考えています、という答えを導こうとしていると思うが、ここでは、選択肢が「満足」などとなっている。この辺り、違和感を覚える。「どのように考えていますか」という問なら、その考えを述べさせるべき。

どう受け止めますか、という程度なら、選択肢は「満足」「十分ではない」「分からない」などでも十分。

（事務局）

2つあって、例えば全体的な配置数としてどうかというのが1点、利用しやすい場所にあるかというのが1点。要は、図書館はたくさんあるので17箇所でも十分だが利用しにくい場所にあるという意見、図書館をもう少し増やしたほうがいいという意見もあると思うので、問16を2つに分けるとするのはどうか。

ただ、今の図書館の配置状況で利用しやすいかどうか、というのは聞かないといけないと思う。

（委員長）

だから、私は図書館の数を聞く必要はないと思う。数そのものにそれほど関心はないと思う。やはり、自分が利用しやすい場所に図書館があるのかどうかに関心があると思う。

（委員）

ちょっと、いいか。問5の「この1年間で利用したことのある図書館はどこですか」に、下関や苅田の図書館も入れるべき。これらは、北九州市民がよく利用しているようなので。

（事務局）

問5では、広域利用が可能な図書館のうち、北九州市民の利用者が多い図書館を基本的に列挙しているが、これに、苅田と下関の図書館を加える。このほかの図書館については「その他」に記入していただくことにしている。

（委員長）

問6の「その図書館を利用している理由は何ですか」で、「図書館が広くて

きれいだから」という選択肢があるが、「広くてきれいだから」利用するのか。

それなら、古い図書館は駄目ということになる。そうではなくて、落ち着くとか、ほっとするとか、多少古くてもそこにいたいという要素でくくったほうがいい。だから利用されているわけで、それはやはり安堵感だと思う。

（事務局）

例えば、「雰囲気がいいから」「過ごしやすいから」などはどうか。

（委員）

「居心地がいいから」でもよい。

（委員）

問5の「1年間で利用したことのある図書館はどこですか」で、「利用頻度の高いものから3つ」を記入するようになっており、問6以降は利用頻度1位の図書館について答えるようになっている。

しかし、私にとって、利用頻度が高いのは一番近い図書館だが、利用したい図書館は別にある。アンケートで、市民が利用したい図書館のイメージを知りたいならば、利用頻度1位の図書館について答えるのはどうかと思う。

現状調査ならば利用頻度1位の図書館でよいと思う。それはどう考えているのか。

（事務局）

複数の図書館を利用される方は、利用する図書館によって利用形態や目的が異なる場合があると思う。そこで、利用実態を問うという観点で、一番利用頻度の高い図書館に絞った。

（委員長）

それはそれで、ある意味合理性を感じる。利用目的に応じて図書館を選ぶということも多少あると思う。例えば、土・日曜の利用と、平日の利用でも違いがあると思う。

（事務局）

今のご意見は、日頃は止むを得ず自宅から近い図書館を利用しているものの、本当に行きたい図書館は、週に1回しか行けないけれども別にあるということだと思う。

しかしながら、これを問うとなると設問が複雑になってしまい回収率に支障をきたすおそれもある。まず問いたいのは、最も利用している図書館を、どういう理由で選択しているのか。例えば、門司在住の方で中央図書館を最も利用している場合、おそらく通勤に便利だからだと思うが、そういう結果が欲しい。

（委員）

アンケートの最後に、回答者の性別や職業などを尋ねる問があるが、例えば、自営業の方が図書館をどのように利用しているのかなどが分析できるのか。

（事務局）

分析できる。また、例えば、大里ブロックの方と門司港ブロックの方で、利用図書館に差異が出るかどうかということまで、一応分析する。

（委員）

データ分析が大変だと思う。

（事務局）

データをたくさん集めることが一番大事になる。

（委員）

アンケートを取ることにについて、広報か何かするのか。

（事務局）

20歳以上の市民が約80万人いる中で、そのうち3,000人に直接ご自宅に郵送するため、広報の予定はない。

（委員長）

いろいろな意見が出たが、修正等について最終的に確認したい。

（事務局）

問5の「この1年間で利用したことのある図書館はどこですか」について、市外の図書館として、下関と苅田を加える。

問6の「その図書館を利用している理由は何ですか」について、選択肢の「図書館が広くてきれいだから」を「雰囲気がいいから」とか、「落ち着くから」「居心地がいいから」という表現に変える。

問7の「その図書館までの利用交通機関は何ですか」について、「主な利用交通機関は何ですか」という表現に変える。

問16については、図書館の場所の満足度を測れば、当然、自宅から近い人は満足度が高くなる。個人差に左右されるようだと、客観的なアンケート結果が得られるかどうか。そして、結果が「十分ではない」となったときに、どうすればいいのかということは、当然、我々も問われる。

例えば、門司区などは図書館の数がある程度揃っていると思うので、現状をどう思うか、市民の基本的な認識を知りたいと考えている。そのうえで、図書館の数や場所について、将来のことを考えると、世の中も変わってくるので、もっと便利な場所を望むのか、そうではなく静かな場所なのか、そういった方向性が分かればと思って、この設問をつくった。

(委員長)

そこまで踏み込んで設問するならば、選択肢を増やすなど考慮しないといけない。

この設問で17箇所という数を出したのは、露骨に言うと、これだけの数の図書館があるということを認識してくださいということだと思う。

(事務局)

問16については、設問の表現を修正するとともに、選択肢を増やし対応したい。

(委員長)

そういうことで、アンケートの実施をよろしく願います。実施スケジュールはどうなっているか。

(事務局)

アンケートは、6月の下旬に発送して、7月5日土曜日までに、同封の返信用封筒に入れて投函していただくということで、注釈を付けさせていただきます。

また、3,000対象アンケートとは別に実施する小中学校分などについては、少し時期が遅れて、7月上旬に配布することになる。

（委員長）

図書館全般に関して何かご意見はありませんか。特になければ、本日の検討小委員会はこれで終了する。

（事務局）

今回は、アンケートの集計がまとまる8月頃に開催したい。開催日時等については、また別途ご連絡申し上げます。